

『紅葉を訪ねて： コキア』

## 国営ひたち海浜公園散策報告 (2019年10月21日(月))

紅葉の適期を見極めるのは櫻の花よりはるかに難しい。その期間が短いこととその年の天候によって変化するからである。8月29日に「緑色のコキア」を見にいった、今度は絶対に「真紅のコキア」を見たいと考えたのだ。ビスターリにも提案して計画を立て、紅葉シーズンの土曜日曜はかなり混むことも予想されるので、平日に行くことにした。

紅葉時期の見定めに“ブレ”が出て、若干まごついたが結局21日(月)に決めた、そして池田、三浦、ゲストの伊藤さんと陽田の4名で出掛けた。9時30分、勝田駅前集合にしていたが、三浦さんたちは既にご到着していた。そして“お得だ”という「入園券付1日フリー切符」を買っていただいていた。この切符実は¥1,000円也、しかしバス代片道¥400で入園券は“シルバー(65歳以上)”は¥210に割引きになるので、¥10お得になる(若い人では¥200お得になる)。臨時直通バスに乗り11時少し前に「国営ひたち海浜公園」に到着、今日は平日だが入場者は多い。

早速、「コキア」のある「みはらしの丘」を目指す。途中売店群の処では、背景に何鉢かの「コキア」を並べてその前で写真を撮ってあげるといふ商売をしている人もいたが。途中の道では、紫色の萩の花が満開だ。10分ほどで「みはらしの丘」の下に到着。丘の間を縫う道は人人人であった。丘の手前には「ソバ」の畑があり、白い花を満開に咲かせている。

ここで、皆さん写真の撮り方や歩き方に時間差があるので、40分後の12時に丘の頂上(海拔58mだそう)で待ち合わせることにした。

丘一面に紅葉した「コキア」が植えられていて、なかなか圧巻で見応えがある。パンフレットで見る“真紅”よりは少し色が薄いけど十分満足だ。ただ薄日は差すものの青空がないのは残念だった。この紅葉した「コキア」からは「とんぶり」は採れそうもない感じ。実が小さすぎる。

聞き慣れないというより聞いても分からない言葉が飛び交う、犬を連れた人、乳母車を押す人も多いが、何といても“ノースリーブ”の女性には驚いた。今日は薄日が差していて風は弱いけど肌寒い天候だ。半袖の若い男、女もいるが少しそぐわない気がする。また浴衣姿の女性がいるかと思うと、長いコートや毛皮のコートを着た女性グループもいた。どうも南アジアからきた女性らしかった。

丘の頂上で再会した後麓に下り、沢山並ぶベンチに座って昼食を摂る。三浦さんここでようやく本日唯一のビールを手にする。残りの人は“不調法”なので勝手にお茶やコーヒーで喉を潤したのであった。昼食後は高速道路に隔てられた公園の南半分地域に向かう。

こちらは人が少なく静かだ。先ず見えてきたのが大観覧車と「キバナコスモス」、広い芝生の原だ。「キバナコスモス」は少し盛りが過ぎているものの、大きな目で見れば鮮やかなオレンジ色が映える。“大草原”の方にはあちこちに「パンパスグラス」(ススキに似たイネ科の植物)の株が生えている。

これと大観覧車との組み合わせがよい。芝生では小型（1～2人用）テントを張って休んでいる家族連れもいた。観覧車の近くまで行くと「コスモス：レモンブライト」の鮮やかな黄色のコスモスが咲き乱れていた。こちらにも終りに近い。

その先ではもうこのコスモスの刈り取り作業をしている人達がいた。コスモスは多年草だが訊いてみると「そのままでは翌年は揃って咲かないので、また苗から育て直す」のだそうだ。また「コキア」は「こちらで特別に改良した種類を、天理市の方に依頼して苗を育てたものを入手する」とのこと。「バラ園」は秋咲きのバラが咲き始めていた。真紅、白色、オレンジ、ピンク色など多彩だ。

しかしもう13時半を過ぎているので、帰ることにして西口ゲートに戻る。13時55分に園を出て、14時05分発の臨時直通バスで勝田駅に向かう。14時39分発の始発普通電車に乗る、ホームにいた清掃員の方に“ボックス席”のある車両を訊いたら、先頭と最後尾だという。それで、我々は近い方の先頭の車両に乗り込んだ。

三浦さんはアルコール燃料が切れてしまって、ずっと居眠り状態です。今年は台風19号や15号の影響で、あちこち山道に崩落が起こっているだろうから、事前によく調べて出掛けなければならないようです。山の紅葉も影響を受けているのだろうな。「今年は12月下旬（冬至の頃）に高尾山に“ダイヤモンド富士”を見に行かないのですか」と。また、風の会の人で、湖から“ダイヤモンド富士”の写真撮影に成功した人がいるとのこと。三浦さんがスマホで調べたら、「田貫湖」から撮ったと調べてくれた。（ここは富士山より南西側に位置するので、見られるのは4月20日頃と8月20日頃の朝だそうです。）

池田さん、「揺れる吊り橋はきれい！」とおっしゃる。この夏雲の平へ行った時、薬師沢出合で黒部川に架かる吊り橋では往生したと。写真で見ると確かに怖い。幅狭いチェッカープレートのみでその両脇は何も無い。「ガイドさんに渡らなければ戻りなさいと言われて、下を見ないで正面だけ見て渡った」とのことでした。また滑り易い丸木橋などを渡るのも怖いですね。電車は17時頃日暮里駅に到着して、駅で流れ解散した。

今回は「真紅のコキア」を見たが、「緑色のコキア」も捨てがたいなと感じた。来年4月には「ネモフィラ」を見に行きたいと思う。今回は車内でいろいろな山の貴重な話を聴くことができ、とても有意義でした。

以上 陽田

『参考』1. 「コキア」は和名「ほうき草」と言い、その実は「とんぶり」という珍味である。「畑のキャビア」と言われる。秋田県大館市が主産地。

2. 「ダイヤモンド富士」の見られる場所は多々あるが、有名な所は  
山中湖付近 : 冬至の頃、夕刻  
本栖湖・竜ヶ岳展望台 : 冬至の頃、朝、日の出  
高尾山 : 冬至の頃、夕刻  
山梨・巨摩郡富士川町「日出ずる里」: 冬至の頃、朝、日の出



「真紅のコキア」



「緑色のコキア」(2019-08-29 撮影)



「コキアとソバの花」

「コキアとヒマワリ」 (2019-08-29)





「キバナコスモスとパンパスグラス」



「コスモス：レモンブライトと大観覧車」

参考2：三浦追記

只今紅葉の見ごろを迎えた「コキア（ほうきぎ）」と旬の「とんぶり」との意外な関係ご存知でしたか？

<https://news.livedoor.com/article/detail/13689867/>

畑のキャビア「とんぶり」は、コキア（ほうきぎ）の実だっでご存知でしたか？！

とんぶりはコキア（ほうきぎ）の種子です。このほうきぎは、4月下旬～5月上旬に苗床を作り、6月上旬に定植し、8月中旬頃小さな花を咲かせ実を付けます。9月下旬、収穫作業が始まりますが、とんぶりは実が小さく風に飛ばされやすいので、この収穫期に心配なのが台風の到来です。生産者の方は収穫が終了するまで大変ですね。

「とんぶり」の名の由来については、「ぶりこ（ハタハタの卵）に似た、唐伝来のもの」を意味する「とうぶりこ（唐ぶりこ、唐鰯子）」が省略され、転訛したものとする説が有力です。外見は魚の卵のようで淡い緑色、味も淡泊でプリプリした歯ざわりのよさは、「畑のキャビア」「和製キャビア」「陸のかずのこ」などと形容されます。刺身、しらす、ながいも、納豆、酢の物などの付け合わせとして、江戸時代から食されてきました。各種ビタミンやミネラルがバランス良く含まれた健康食品です。おすすめは、納豆や、すりおろした山の芋などと混ぜ合わせて食べるとプチプチした食感が楽しめます。